

水哉園の教育を実践した

村上 貞 ただす

武士にあこがれ戦場へ

杉山貞は天保十四年（一八四三）八月二十八日、豊前国企救郡横代村の庄屋、杉山助三郎の三男として生まれた。

七歳の頃、兄から漢籍の手ほどきを受け、丸山隼之助に武術を学んだ。慶応二年（一八六六）の小倉戦争で初陣するが、小倉藩は長州藩に敗北した。

村上仏山の水哉園に入門する

戦争体験から学問の必要性を感じて翌年、水哉園に入門した。二十四歳からの晩学で、水哉園での修行中に著した日記『日誌摘要秘書』によれば短期間で詩文や『四書』等を修了した。

杉山の修業時代の『仏山堂日記』が存在しないので、『日誌摘要秘書』が当時の水哉園の状況や人間関係を知る貴重な資料となる。

師である仏山の後妻を世話するために奔走したことも記載され、仏山が杉山を信頼していた証であろう。

北九州教育界の重鎮へ

明治五年（一八七二）二月、水哉園を辞して同六年三月、下曽根小学校の教員となる。さらに同七



ID 0034380

年六月、九州では唯一の長崎師範学校に入学する。規定では修業年は二年であるが、成績優等で半年早く卒業し、同九年二月に小倉化育小学校の訓導となる。

明治十五年九月に小倉中学校長となり、同三十一年六月には小倉高等女学校長となつて、同四十一年に六十五歳で退職した。

この間、近代教育の指導者として多くの功績を残し、文部大臣や福岡県教育委員会等から何度も表彰された。

水哉園の全人教育を継承する

師である仏山の全人教育に感銘した杉山は「至誠は天地を動かす」を理想として、これを学校教育の現場で実践した。特に寄宿していた女子生徒には気をくばり、経済的に困つてる生徒には援助を惜しまなかつた。

大正二年（一九一三）七月に病のため他界した。享年七十であった。大正八年の七回忌の際、小倉広寿山福聚寺に功績碑が建立された。親友の末松謙澄が撰文を草し、すぐれた人格の教育者であったことを讃えている。

（村上仏山・末松謙澄顕彰会 城戸淳二）